

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2019年10月1日 第1139号



つくば市議会が閉会する

つくば市議会は9月3日から開催され、報告・認定・議案などの審議が行われました。

今回の議会から決算認定は決算特別委員会を9月議会中に開催して平成30年度の決算審議が行われることとなり、議長（神谷議員）と議会選出監査委員（滝口議員）を除く全議員の委員会を設置して審議された。また、決算認定では認定案7件ありました。

認定では、平成30年度つくば市一般会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市

議会報告会が開かる

つくば市議会では、11月10日（日）に議会報告会を開催します。当日は、総務・文教福祉・市民経済・都市建設から委員会審議の報告と議会活性化推進特別委員会から議会改革の取り組みについての報告、意見交換会が計画されています。ご参加をお待ちしています。

日程 11月10日（日）午後1時30分
場所 コミュニティ棟 市役所となり

水道事業会計特別会計歳入歳出決算認定。の審議内容と審査結果の報告が決算特別委員会委員長からあり採決の結果、認定されました。

一般会計補正は全会一致で採択

一般会計補正予算では、TX沿線地区での児童生徒数の増加に伴い小学校・中学校の用地取得事業債や子ども・子育て支援臨時交付金、保育所運営費負担金などの歳入、また歳出では、小学校・中学校の建設事業やプレミアム商品券事業など他の事業を含めて31億7713万2千円が増加されているとの評価で採択された。また、消費税率の改正で使用料金のアップ条例が提案されたが、金子議員は反対しましたが賛成多数で採択となりました。

部落差別に反対し、 狭山事件の再審請求を求める

部落差別に反対し、狭山差別事件の再審開始を求める講演学習会を8月、狭山事件と人権を考える茨城の会が土浦市で開催し、金子かずお議員も会員として参加しました。

狭山事件で警察・検察・裁判所は、えん罪（でっち上げ）事件を起こしただけでなく、その後も、検察はすべての証拠開示に応じようとせず、裁判所は有罪判決を出して以降44年間一度も新たな証拠調べもしようとしめないなど、極めて非民主的・前近代的な対応に終始しています。

当日は、狭山事件再審弁護団の青木孝弁護士が講演し、石川さんが無実であることを示す新たな証拠を説明し、一刻も早く再審を勝ち取ろうと、以下のようなお話をしました。

① 筆跡は石川さんと違う

狭山事件で犯人が残した唯一の証拠品は脅迫状です。有罪判決は、自白と警察の筆跡鑑定を根拠に石川さんが書いたとしました。

しかし、同じ2016年に書かれた脅迫状と石川さんの上申書では、筆跡は明らかに違っており、すでに専門家の筆跡鑑定を4通だしているだけでなく、昨年には福江潔也・東海大学教授によるコンピュータによる筆跡異同識別鑑定報告書も提出されました。

② 万年筆は被害者の物と違う

石川さん宅から「発見」されたという、被害者の万年筆も、有力な物的証拠です。しかし、発見された万年筆のインクと、被害者が使用していたインクがまったく違うことが、下山進・吉備国際大学名誉教授によるペーパークロマトグラフィー検査によって明らかになりました。第一次再審棄却決定は「インクを」補充したという推測を

狭山事件は、1963年5月1日に埼玉県狭山市で発生した、高校1年生の少女を被害者とする強盗強姦殺人事件。警察は身代金を取りにあらわれた犯人を40人もの警官が張り込みながら取り逃がしてしまいました。女子高校生は遺体となって発見され、警察の大失敗に世論の非難が集中しました。

捜査にいきづまった警察は、付近の被差別部落に見込み捜査を集中し、なんら証拠もないまま石川一雄さん(当時24歳)を別件逮捕し、1カ月にわたり警察の留置場(代用監獄)で取り調べ、ウソの自白をさせて、犯人にでっちあげたのです。地域の住民の「あんなことをするのは部落民にちがいない」という差別意識やマスコミの差別報道のなかで冤(えん)罪が生み出されてしまったのです。

一審・死刑、二審・無期懲役判決を受けた石川さんは、31年7ヶ月の獄中生活の後、仮釈放され、56年経った今なお無実を訴え、東京高裁に再審を求めています。

入れる余地も残されていないとは言えない」と屁理屈を述べ、発見万年筆を被害者のものとしましたが、これを完全に否定するものです。

③ 万年筆はなかった

そもそも、この万年筆は石川宅の3回目の捜索で発見されたもの。ところが捜索に当たった元警部が1986年に、1回目から捜査は徹底して行い、「発見」されたとされる鴨居の部分も入念に捜査したが見つからなかったと証言したのである。万年筆からは石川さんも被害者も指紋が検出されておらず、「万年筆」は捏造された可能性が高い。

現在、第3次の再審申し立てを行っており、世論を大きくし、再審を実現させよう。